

令和8年度

事業名	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第43回大会
期日	令和8年5月16日(土)～17日(日)[情報交換会5月15日(金)]
参加者	1日目：354名 2日目：212名 参加者延べ人数 566名
テーマ	子ども・若者の自立と発達支援のあり方を問う
<p>子どもの健やかな成長・発達は、教育関係者のみならず誰もが願っていることでしょう。残念ながら、不登校、暴力行為・いじめ、自殺した児童生徒を示す数字は深刻です。うつや摂食障害などの精神疾患も10代で増えています。一見「普通」の子どもたちも、スマホ・PCの長時間使用(ネット・ゲーム・SNS依存)、それに伴う生活リズムの乱れ、リアルな遊びや体験の不足など、心配な実態があります。コロナ禍は状況をさらに悪化させました。</p> <p>親や教師など大人の保護や助けがないと一人では生きていけない子どもたちも、やがては自分の足で立ってこの世をわたっていかなければなりません。子育てが目指すところは「自立」といってもいいでしょう。自立を支える「生きる力」の育成には、体験が欠かせません。しかし、社会や生活の変化、過保護の風潮(あるいは虐待)などによって、多くの子どもが、大事な体験を欠いたまま大きくなっています。自立できない若者が増えています。本大会では、教育処方の一つとして、自立に必要な力を育む体験(たとえば、自主・自律、協力・共同生活、困難への挑戦など)を意図的に盛り込んだ「欠損体験の補完」プログラムを、これまでも提案してきました。</p> <p>教育機会確保法(2016年)とその後の「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(2023年)では、民間とも連携しながら学校内外で一人一人に合った多様な学びの場を整備する、学校に登校することのみを目標にするのではなく、子どもたちが「社会的自立」を図れるように支援するとしています。学校であれ第三の「居場所」であれ、「社会的自立」を目指すことが重要としているのです。そこに、どのような「自立のトレーニング」プログラムがあるのか、その支援体制はどうするのが問われています。</p> <p>自立に向かう発達支援のあり方はすべての子どもたちの問題です。学校、家庭、地域(民間団体含む)には何が求められるのか、何が大切なのか、社会教育は何ができるのか、改めて考えたいと特別企画を設定しました。</p> <p>今年も「未来を展望する素材」となる24事例が集まりました。子どもの発達を支援し、自立を促す取組、地域の人づくり・つながりづくりに奮闘されている実践の数々に勇気づけられます。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。</p> <p>本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな</p>	

交流会の様子（発表内容及びプログラム）

【5月15日（金）】

情報交換会 19:00～21:00（大会実行委員会 20:00～20:30）



【5月16日（土）】

10:00～10:30 開会式



10:30～12:20 実践発表（午前） 12事例発表（3事例×4会場）

○こどもも大人も社会も well-being

～ユースセンターまあぶるの取組から～（岡山県真庭市）

NPO 法人 manabo-de 理事長 森年 雅子 氏

○こども対象事業を通じた地域の担い手づくり（福岡県福岡市）

福岡市東箱崎公民館 主事 中村 淳子 氏

福岡県東区役所生涯学習推進課 こども育成調査アドバイザー 藤田 玲子 氏

○子どもをまん中に据えた地域学校協働活動の推進

～五者連携による取組の充実を通して～（熊本県阿蘇市）

阿蘇市教育委員会 社会教育指導員 東 伸一朗 氏

○えっ！何で国境離島に日本語学校？

～実は地域共創へのワンピ～（長崎県五島市）

学校法人九州総合学院五島日本語学校 校長 社会教育士 山上 福範 氏

○子どもたちの「やってみよう！」に「YES」で答えるサークル「SAY YES」

（鳥取県西伯郡伯耆町）

溝口小学校学校運営協議会所属ボランティアサークル「SAY YES」代表 松原 裕 氏

- 親子と地域がつながる体験機会の創出
～「家族でチャレンジ in 南さつま」と「親子で楽しむ作文教室」～（鹿児島県南さつま市）
南さつま市教育委員会生涯学習課社会教育係 社会教育指導員 内田 昭弘 氏
- 「ぱーらーうがんもー」地域の公園で交流の場づくり（沖縄県島尻郡南風原町）
南風原町教育委員会 地域コーディネーター 儀間 千恵 氏
- 図書館がまちを元気にする！
～本に興味がある人もない人も集う交流の場～（佐賀県三養基郡基山町）
基山町まちづくり課 参事 基山町立図書館 館長 城本 直子 氏
- コーヒー一杯で学習を
～むなかた市民学習ネットワークの40年のあゆみ～（福岡県宗像市）
むなかた市民学習ネットワーク運営委員会 会長 小野 誠 氏
- みんなの居場所は街の雑貨屋さん
～地域コミュニティの力を生かした多世代交流の居場所づくり～（福岡県柳川市）
ハンドメイド雑貨工房 Ducca Sweets 代表 発達障害児支援士 前田 香織 氏
- 学校と公民館の一体化
～世代をつなぎ、地域を耕す～（島根県益田市）
島根県益田市立桂平小学校 ふるさと・ひとつなぎコーディネーター 岩坂 菜月 氏
二条公民館 主事 谷本 のぞみ 氏
- 子ども会組織の消滅危機を巡って
～子ども会加入100%達成と地域の工夫・実践～（鹿児島県始良市）
かごしま県民大学中央センター 社会教育指導員 鶴木 孝夫 氏

13:50～15:40 実践発表（午後） 12事例発表（3事例×4会場）

- 「ふるさと」を問い続ける 学生団体ブーメランカレッジの挑戦
～中高生対象の合宿プログラムの工夫と展望～（愛媛県南予地域）
学生団体ブーメランカレッジ 代表 井上 弘一朗 氏
学生団体ブーメランカレッジ 副代表 高田 貞治 氏
学生団体ブーメランカレッジ 副代表 濱遊 玲音 氏
- 主体的に地域づくりに参画する「あぶPRIDE」の育成をめざして（山口県阿武郡阿武町）
阿武町教育委員会 派遣社会教育主事 守永 弘志 氏
- 自分らしく社会に関わる若者が育つ3ステップ
～居場所・ボランティア・探究～（島根県邑智郡川本町）
一般社団法人 asolab マネージャー 城所 佑志 氏
- 明野次世代の会『明野想成塾』の挑戦
～明野創生50年から次の50年へ、世代を繋ぎ、よりよいまちづくりを目指して～（大分県大分市）
明野想成塾 代表 和気 勇一 氏
- 「伝える平和学習」から「伝わる平和学習」へ
～「今日からどのように生きるか」を考える学びの創出～（福岡県北九州市）
北九州戦争を次世代に伝えていく会 代表 樺島 由彬 氏
- 棚田の景観を再生「ときめく棚田大作戦」に挑戦（山口県長門市）
NPO 法人ゆや棚田景観保存会 副理事長 和田 あいこ 氏

○子どもたちに豊かな放課後の時間を（福岡県飯塚市）

飯塚市教育委員会学校教育課 指導主事 梶嶋 謙治 氏

○ヤバイんじゃない！？自分の心・思いを素直に発信できないなんて

～「本当の自分の思い」→「見える化」実現！～（熊本県熊本市）

有限会社カジオ企画 代表 ゲームクリエイター・シナリオライター 櫻井 真実 氏

○科学教育ボランティアの取組（宮崎県宮崎市）

科学教育ボランティアジョイフルサイエンスクラブ（JSC）会長 梶木 満 氏

○遠隔2市町の社会教育施設が連携・協働した子供たちの学びの場づくり

（広島県尾道市・広島県神石郡神石高原町）

尾道市河内公民館 館長 林 聖人 氏

神石高原町油木協働支援センター 事務局長 赤木 弘史 氏

○WAI☆WAI☆りびんぐマルシェ

～不登校やひきこもり等の背景をもつ子ども・若者によりそい、自立をめざした就労準備のためのプロジェクト型の継続支援の場～（佐賀県佐賀市）

認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス（S.F.F）理事 松尾 秀樹 氏

○福岡県国公立青少年教育4施設連携協働事業

「ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ」（福岡県福岡市）

福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事 姫野 大夢 氏



16:00~16:30 特別報告

「社会教育って何だったのかーごく個人的な経験と思い」

報告者 鈴木 眞理 (青山学院大学名誉教授)



17:00~19:00 第43回大会交流会



【5月17日(日)】

特別企画 ミニ講演とインタビュー・ダイアログ

「子ども・若者の発達と自立を支援する

～何をめざすのか、そのために何をどうするのか～」

9:00～10:10

第1部「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない

～『声なきSOS』を受けとめる伴走型支援の現在とこれから～」

登壇者 谷口 仁史(認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事)

古市 勝也(九州共立大学名誉教授)

大島 まな(公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム理事長、九州女子大学名誉教授)



10:20～11:30

第2部「社会教育と連携した学校のプログラム改革

～長期宿泊合宿(4泊5日)がもたらす学びの質的転換～」

登壇者 益田 茂(福岡県添田町教育委員会教育指導主事)

白土 智章(福岡県立英彦山青年の家研修課長・社会教育主事)

聞き手 森本 精造(元福岡県飯塚市教育委員会教育長)

菊川 律子(放送大学名誉教授・社会教育士)





参加者の声

<実践発表>

- 自分の好きなことがあること、環境があることが大事だなと思った。
- 地域でどのように子どもたちを支えているのかよくわかった。
- 対話→自分事→主体性のために、目的、関わり方等共通認識をもっておく必要性を感じた。
- 自分の仕事に生かせるところがあった。誰でも受け入れてゆるくつながる、その基本は同じだと実感した。
- 心が動かすこと、心が動くことの大切さを感じた。
- 子どもを真ん中に、大人がどう関わっているのかとても理解することができた。
- 人との繋がりや間口を広く集めることができる活動の実例、また自分の担当事業に関わる発表が聞いて良かった。
- それぞれの立場の考え方、視点を学べた。共通するものは対話の必要性・場の提供のように感じた。
- 子どもや若者、様々な立場の方々にとっての居場所（安心・安全な）づくりについて学べた。

<特別報告>

- 社会教育が本当に必要な人は誰なのか、はっとした。
- 「何かをやろうとする人をじゃまするな」という言葉が印象的で、まずは動き出す原動力が大切だと感じた。
- 「社会教育はそんなにむずかしいものではない！」という言葉が印象的だった。
- 「一般的に無駄だと感じるような所に成果が隠れていることもある」と言われていた所に納得し、心に響いた。
- 教育全般の中で、人間が人間を教育するという意味を深く考えた。
- 社会教育の内容を今一度考える契機となった。
- 地域のゆるやかなつながり、理屈がどうこうではなくて、やってみてつながってみるのが大切だということが分かった。
- 「人が人に対してやっている」ことが社会教育なんだと伺い、わかりやすかった。

<特別企画第1部>

- 個々に寄り添い、伴走できるシステムが確立できるものなのだと感心した。
- 谷口先生のお話のすべてに圧倒的な説得力があった。人間くさく、泥くさくやっっていくことが、子どもたちのためになるんだと確信した。
- 「誰一人見捨てない」という理念に向けて、様々な事業、取組が参考になった。
- 学校、行政、福祉、社会教育の間に、NPOが入り、各種団体とのつなぎ、ネットワークをつくっていきたいと思った。
- 今の若者の苦悩“いきづらさ”という言葉をよく耳にする時代、その背景を知ることができた。
- S.S.Fの取り組みに圧倒された。カウンセリングでも対応できない深刻なケースにアセスメント重視、継続的に、依存しないように寄り添うという絶妙な距離感。そして、システムがないなら新たに作るという、行動力。常日頃、先輩方から「考えるよりやってみる」と話を聞くが、この行動力こそ社会教育だと改めて思った。

<特別企画第2部>

- 2人の息の合った発表が素晴らしかった。特に、添田町・福岡県立英彦山青年の家の2者での包括連携協定により、コロナの中でも利用者が増えているのが、素晴らしい。昨今は長期キャンプが少なくなる中、5年間も継続し、先生や保護者の理解があり、クレーム発生なく出来ているのは連携がうまく出来ている証だと思う。
- 想い、行動力、エネルギッシュな話にパワーをもらい、人と人のつながりのよさや価値を実感した。
- 一般化するために一緒にプログラムを作るプロセスが大切と伺い、今の仕事にも生かしたいと思った。
- 体験活動の価値を再認識した。
- こども自身が課題解決していく取組が、こどもの自立（律）・自信につながると改めて感じた。
- つながりの大切さ、非認知能力の高まりが学力にもつながることを実感をもって聞かせていただいた。
- 質的・量的の双方からエビデンスをしっかりと残すことの重要性を実感した。

<その他>

- 初めての参加だったが、さまざまな方との意見交流から、自分は今何をしたいのか、何をすべきかを今一度考えるきっかけになった。社会教育、奥が深い！
- 得るものがとても多く、来年度以降も参加してみたいと思った。
- やっぱり人、人とのつながり、協働が大事だなと思った。
- 毎回この会でエネルギーを注入して1年間のり切っている。感謝！
- 色々な配慮を感じた。たくさんの方々と交流できて楽しかった。
- 社会教育のイメージが鮮明になってきて、“自分の町なら”というたくさんの気づきがあった。参加して本当によかった。
- 他県の人たちとたくさん知り合うことができパワーをもらえた。
- 社会教育を取り巻く背景も様が変わりしていく。しかし、思いや工夫でニーズに対応していく人の英知の素晴らしさを学ばせていただいた。